斐川町文化財調査１３

町道杉沢線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

（杉沢遺跡）

１９９５年3月

島根県 斐川町教育委員会

序

斐川町教育委員会では、斐川町建設課から依頼を受けて１９９２年（平成４年）から町道杉沢線改良工事予定地の分布調査を実施し、古墳と思われるマウンド５基と、遺物の散布地数カ所を確認しました。

これをふまえ、引き続き本調査を行った結果、弥生時代中期ごろの竪穴式住居跡や、古墳時代前期から中期にかけての土壙墓群など貴重な遺構の存在が明らかになりました。

本書が、多少なりとも皆様の文化財に対する理解と関心を高めることに役立ちましたら幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成７年３月

斐川町教育委員会
教育長　杉　谷　光　昭

例　　言

1．本書は、斐川町の委託を受けて、斐川町教育委員会が平成４年度から平成５年度にかけて実施した、町道杉沢線改良工事予定地内における埋蔵文化財発掘調査の概報です。

2．調査地は次のとおりです。
島根県簸川郡斐川町大字直江町３７８５番地外

3．調査組織
事 務 局　富岡俊夫（文化課長）、山根信夫（平成４・５年度同係長）、
　　錦織　勉（平成６年度同係長）、栂　由喜子（同職員）
調 査 員　常松幹夫（文化課主事）、宍道年弘（同）
遺物整理　青木由美（文化課職員）、大田晴美（同）
調査指導　島根県教育委員会

4．本書で使用した遺構略記号は次のとおりです。
ＳＩ－竪穴式住居　ＳＫ―土壙　ＳＸ―土壙墓　Ｐ―ピット

5．本書に記載した「調査した遺跡とその周辺の遺跡」では、１：5,000の斐川町基本図を基にして作成された1:10,000の管内図を使用しました。

6．本書の執筆、編集は常松幹夫が行い、遺構のトレースは大田晴美が行いました。

7．出土遺物及び写真は、斐川町教育委員会で保管しています。

8．調査にあたっては、地権者の黒田米造、松山勝義両氏をはじめ、次の方々に協力をいただきました。
四方田三己（斐川町文化課主事）、松本堅吾（同）、永妻清信（同）、陰

山真樹（同）。

飯塚トシエ、池田　良、伊藤トヨ子、井原達雄、江角　健、遠藤繁雄、岡　喜義、岡　トシ子、小村正志、梶谷正一、梶谷松代、加藤秋子、神庭誠悦、黒田幸一、黒田哲子、黒田友喜、黒田瑞夫、黒田利一、佐藤倭和子、昌子健二郎、昌子滝市、常松哲夫、栂　真一、新田栄美子、長谷川恒太郎、原　定雄、村上花子、持田繁義、山田貴幸、山田ヒサ子、山根恭子、山根作夫、山根　徹。　（敬称略）

調査に至る経緯、経過

本遺跡は、町道杉沢線改良工事に伴い、１９９２年（平成４年）に実施した事前調査の結果発見された遺跡です。

杉沢遺跡は、ほぼ南北方向にのびる標高３５ｍ前後の尾根上（A区）と、その尾根から南方向にある南西向き斜面（B区）に位置しています。

A区からは、古墳時代前期から中期にかけての土壙墓５基と、土器棺墓１基を、西側斜面からは、同時期と思われる加工段とそれに伴う柱穴状の落ち込み１０穴、焼土土壙１などを検出しました。

B区からは、弥生時代中期ごろの竪穴式住居１棟、焼土土壙１などを検出しました。

位置と環境

斐川町は、島根県の東部に位置し、斐伊川によって作られた簸川平野の北部側と、大黒山（標高315.8ｍ）、高瀬山（標高314ｍ）及び『出雲国風土記』に載る出雲郡の神名火山とされる標高366ｍの仏経山から成る南部丘陵地帯で形成されている町です。

今回調査した杉沢遺跡も、この仏経山から南へ派生する標高35ｍ前後の低丘陵上にあります。

斐川町の縄文時代（約10,000年前～2,300年前）の遺跡としては、結遺

跡や、新田畑Ⅰ遺跡、武部遺跡があります。

弥生時代（約2,300年前～1,700年前）の遺跡としては、358本の銅剣、16本銅矛、6個の銅鐸が発見された荒神谷遺跡や、西谷遺跡、斐伊川鉄橋遺跡などがあります。

古墳時代（約1,700年前～1,300年前）には、南丘陵地帯を中心に多くの古墳や横穴墓がつくられるようになります。

奈良時代（約1,300年前～）以降の遺跡としては、武部西遺跡、後谷Ⅴ遺跡、天寺平廃寺等があります。中でも1991年度（平成3年度）から調査が行われた後谷Ⅴ遺跡からは、奈良～平安時代に建てられた礎石を持つ倉庫跡2棟と掘立柱式倉庫跡2棟が、大量の炭化米や墨書土器と共に発見されました。発見されたこの建物群はおそらく、出雲郡家（役所）の関連施設であろうと考えられます。

杉沢遺跡全景

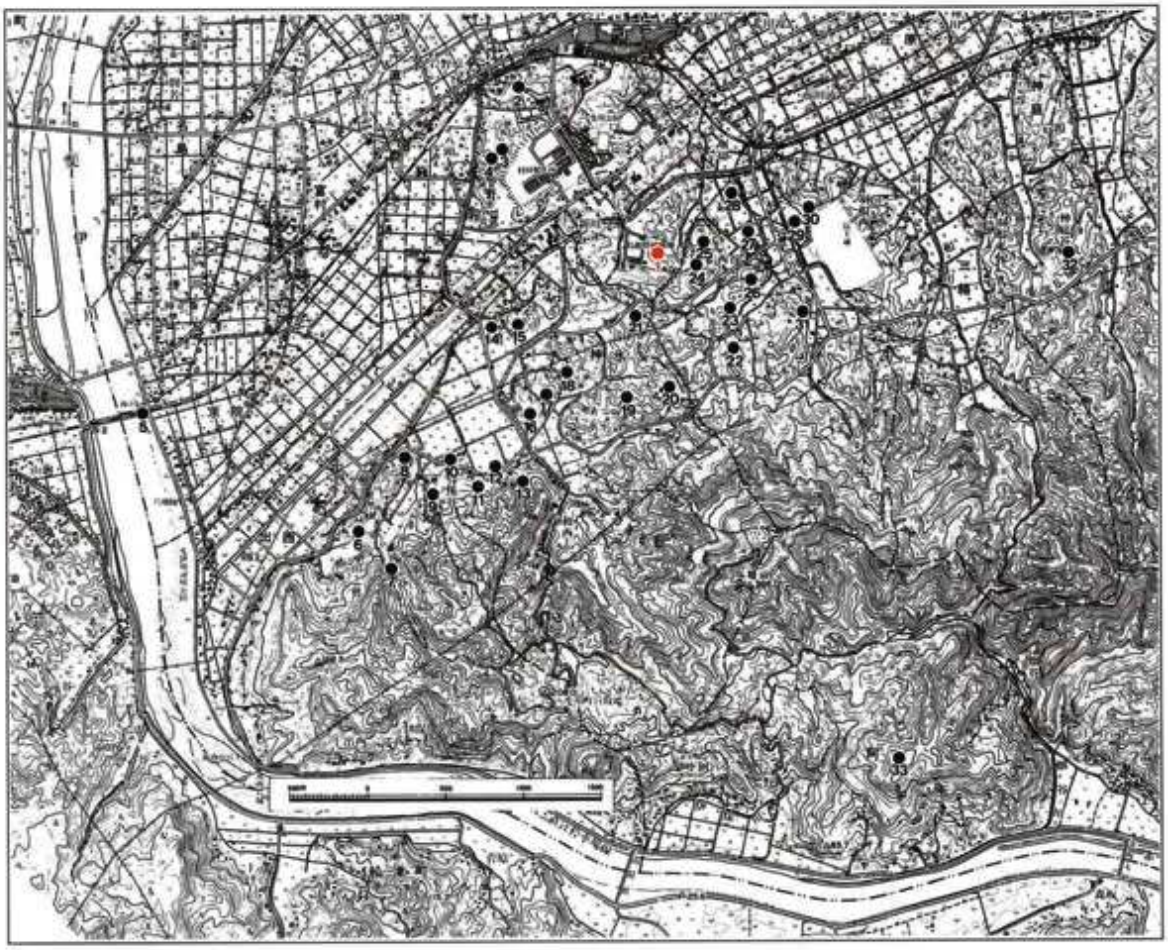

図1　調査した遺跡とその周辺の遺跡

1．杉沢遺跡　2．岩野原古墳群　3．コモゴ山横穴群
4．剣山横穴群　5．斐伊川鉄橋遺跡　6．出西小丸古墳群
7．稲城古墳群　8．後谷Ⅴ遺跡　9．稲城丘陵古墳群
10．稲城遺跡　11．外ケ市古墳　12．小野遺跡
13．新在古墳　14．神守遺跡　15．神守古墳群
16．城山古墳群　17．城山東古墳群　18．神氷古墳群
19．有間谷Ⅱ遺跡　20．有間谷遺跡　21．神氷三メ田古墳群
22．結西谷Ⅲ遺跡　23．三井Ⅰ遺跡　24．三井古墳
25．掘切古墳群　26．三斗蒔遺跡　27．八斗蒔Ⅰ遺跡
28．八斗蒔Ⅱ遺跡　29．貴船古墳　30．吉成古墳群
31．結城古墳　32．荒神谷遺跡　33．天寺平廃寺

杉 沢 遺 跡

A区では、尾根上に、古墳時代前期から中期のころの土壙墓５基と、土器棺墓１基を、斜面には加工段を検出しました。

土 壙 墓

A区では、４カ所で５基の土壙墓を検出しました。

［ＳＸ－０１］この土壙墓は、尾根上に造られた直径約10ｍの円形の墳丘中心部から検出しました。長辺239㎝、短辺33㎝、深さ12㎝で上面部から、古墳時代前期ごろと思われる土器が出土しました。

写真１　ＳＸ－０１（東から）

［ＳＸ－０２、０３］ＳＸ－０１のあった墳丘北側の平坦部に、大小２つの土壙墓が並んだ状態で検出されました。大きい方の土壙墓（ＳＸ－０２）は、長辺331㎝、短辺86㎝、深さ５㎝を測り、内部から長さ63㎝、最大幅５㎝の鉄剣が見つかりました。一方、小さい方の土壙墓（ＳＸ－０３）は、長辺128㎝、短辺32㎝、深さ５㎝で、内部からの出土遺物はありませんでした。

写真２　ＳＸ－０２、０３（北から）

また、これらを囲むように３条の溝が「コ」の字形に検出されたことから、古墳時代前期の方形周溝墓の可能性も考えられます。

写真３　ＳＸ－０２内
鉄剣出土状況

［ＳＸ－０４］この土壙墓は、ＳＸ－０２、０３から北西に約20ｍの低い墳丘頂部から見つかりましたが、墓壙底

部を検出するにとどまりました。

［ＳＸ－０５］ＳＸ－０４のあった墳丘から、さらに８ｍ北側で見つかりました。ＳＸ－０４と同様、墓壙底部のみを検出しました。墳丘の規模は6.5ｍ×５ｍの方形で「Ｌ」の字形の周溝が廻っています。周溝から古墳時代前期から中期のころの土器が３個体出土しましたが、その内の２つは、複合口縁をもつ頸部に突帯をつけた壺形の土器です。このタイプは、島根県内でもごくわずかしか出土例がありません。

写真４　ＳＸ－０５周溝出土遺物
頸部に突帯をつけた壺形土器

土器棺墓

ふだん飲食物を貯蔵するのに使用したと思われる土器を、埋葬に使用したものが土器棺墓です。ＳＸ－０４の1.7ｍ南側で検出され、土器が埋置されていた土壙は、直径約55㎝の円形を呈していました。

写真５　ＳＸ－０４（右）
土器棺墓（左）（東から）

土器は、壺形の土器で、寝かせた状態で埋められ、底部は割れていました。口縁部と底部には別個体の土器の胴部が蓋として使用してありました。

この壺も、他にあまりみられない独特のつくりをしているため、詳細な時期については検討中です。なお、内部からの出土遺物は検出されませんでした。

写真６　土器棺（中央）
（左右は蓋として使われていた土器）

加工段

これらの土壙墓群を形成している尾根の西側斜面に、狭いテラス状の加工段を検出しました。そこには、大小10穴の柱穴状の落ち込みがありましたが、相互関係は認められないため、遺

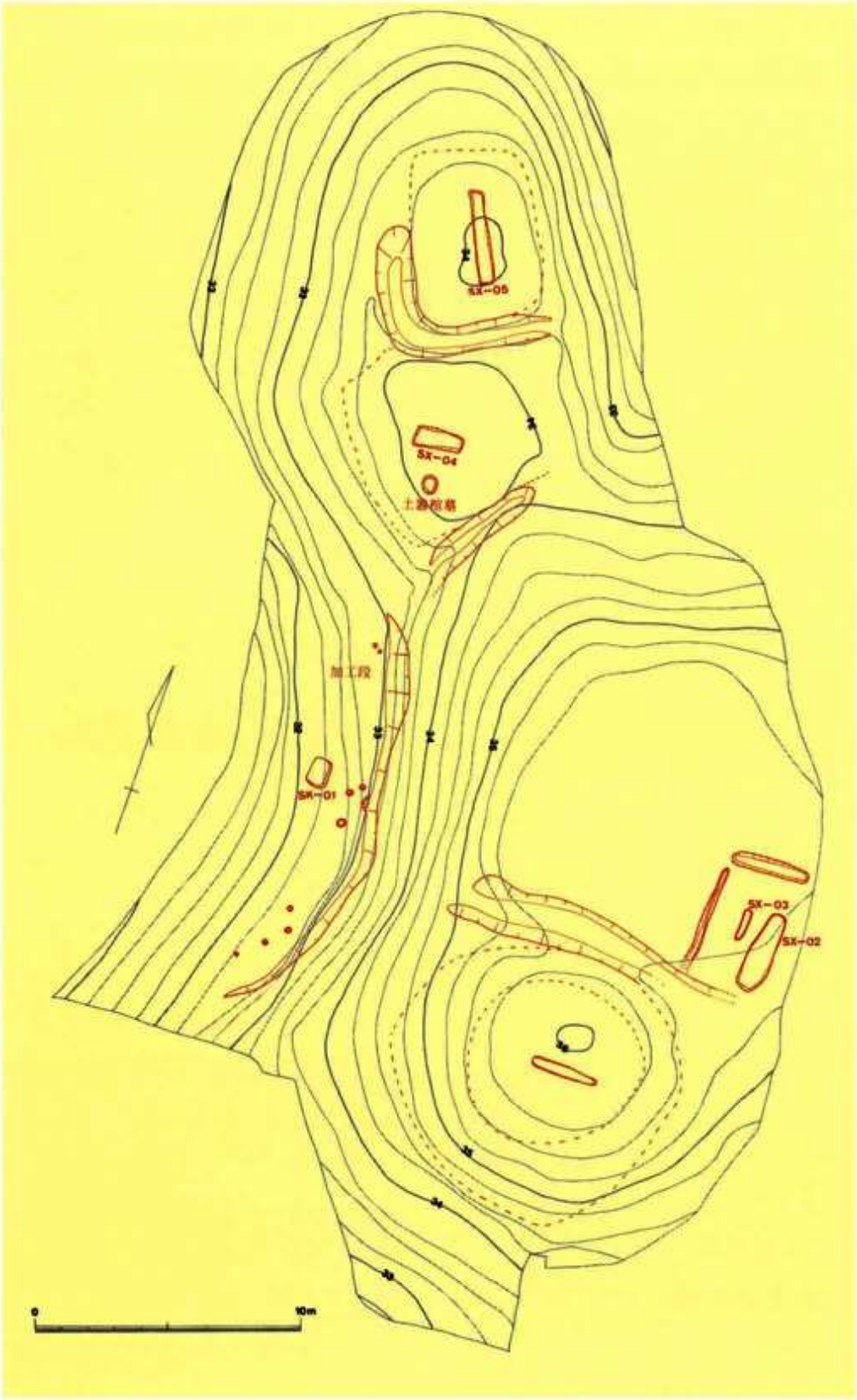

図2　杉沢遺跡遺構位置図（A区）

構のもつ性格は不明です。

また、長辺110cm、短辺70cm、深さ40cmを測る、隅丸長方形の焼土土壙（ＳＫ－０１）を検出しましたが、内部からの出土遺物等もないため、用途等は不明です。これらの周辺からは、古墳時代前期ごろの土器が出土しています。

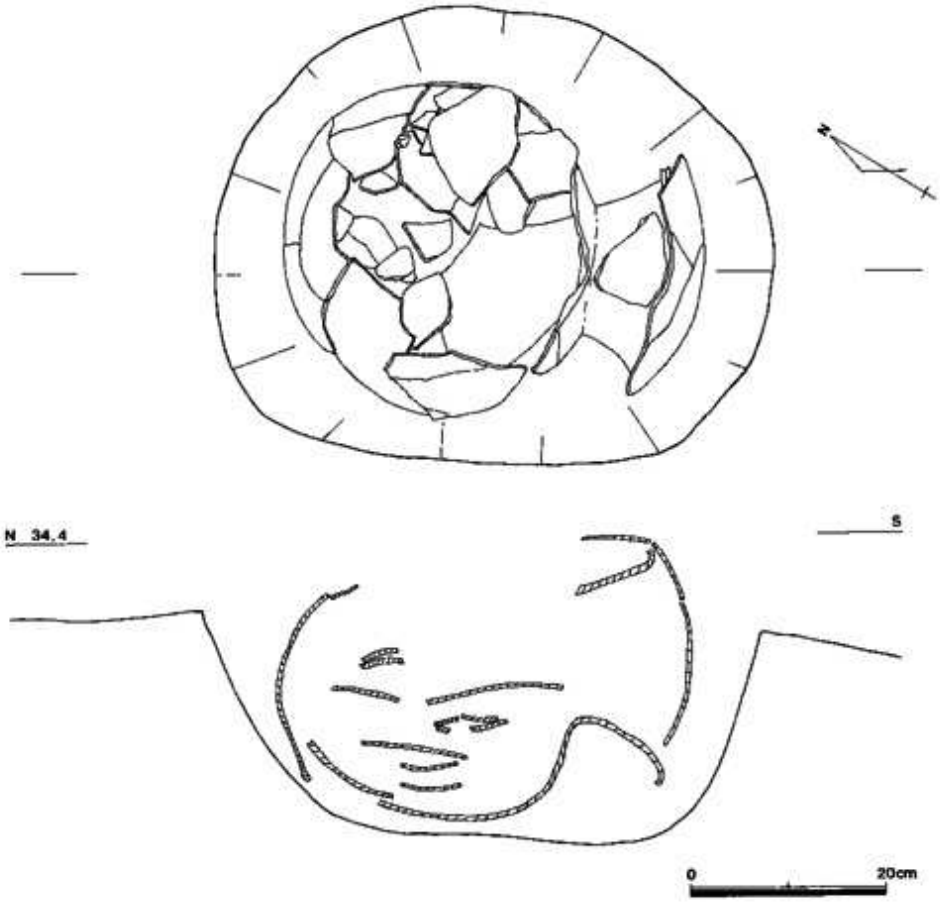

図３　土器棺実測図

Ｂ区では、南西向きの緩斜面から弥生時代中期ごろの竪穴式住居１棟と、焼土土壙１などを、検出しました。

竪穴式住居［ＳＩ－０１］

標高28ｍ前後で南西向きの緩やかな斜面から見つかりました。平面の形は、やや角ばった円形で、直径約10ｍとかなり大型の住居と考えられます。周囲には、Ｕ字状の溝が２条廻っています。

柱穴Ｐ１，Ｐ２，Ｐ３，Ｐ４の４本が、主柱穴となるものと思われます。

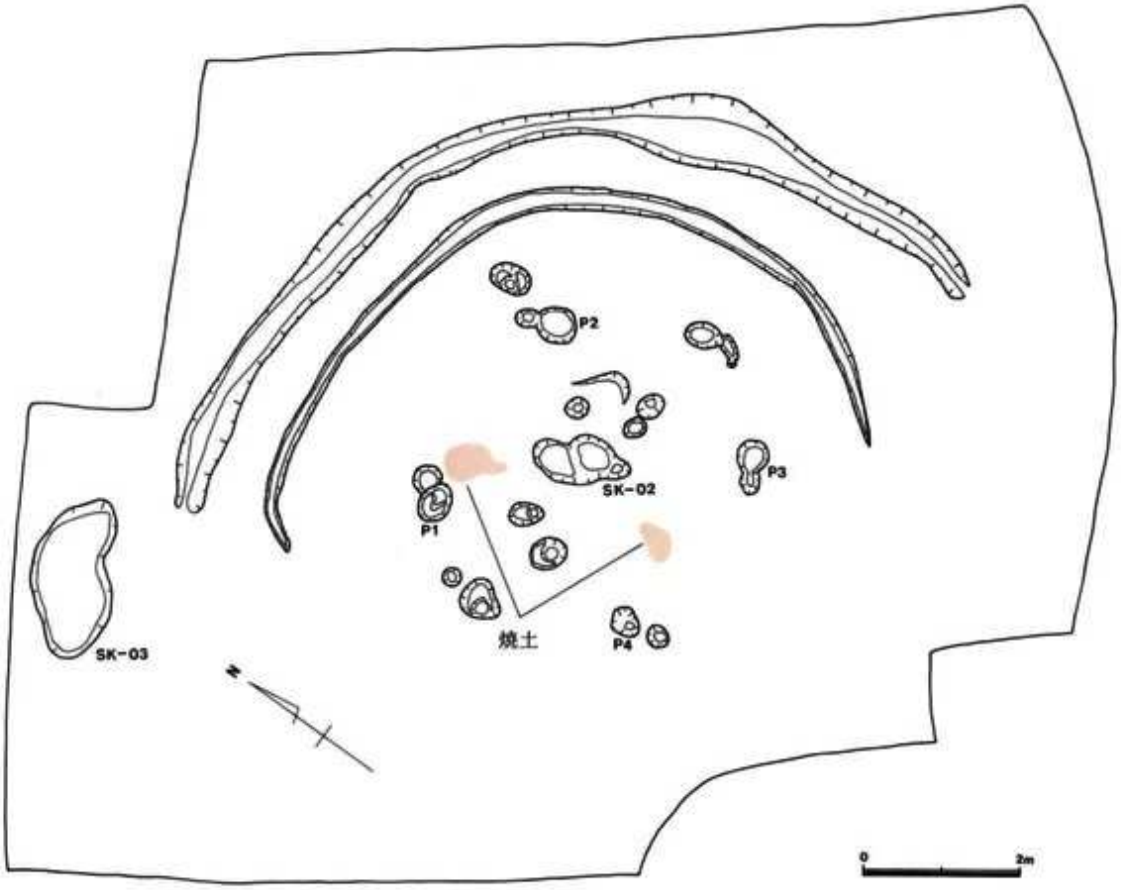

図4　ＳＩ－０１ 平面図（Ｂ区）

写真7　ＳＩ－０１（西から）

写真8　ＳＫ－０３（西から）

写真9　ＳＫ－０３ 出土遺物（上）
　　ＳＩ－０１ 出土遺物（下）

中心には、不整形な土壙（ＳＫ－０２）があり、壙内が焼けていることなどから、炉のような用途に使用された可能性があります。また、この土壙の周りに、焼土面が２カ所認められました。

焼土土壙［ＳＫ－０３］

竪穴式住居（ＳＩ－０１）の西側に、長辺200㎝、短辺110㎝の焼土土壙を検出しました。平面形は、不整形な楕円形で深さは10㎝を測ります。内部から、ＳＩ－０１と同時期の土器が出土しましたが、この土壙が何に用いられたのかは、不明です。

ま　と　め

今回発掘調査の結果、杉沢遺跡は、古墳時代前期から中期にかけての土壙墓群と、弥生時代中期ごろの住居とが隣接する遺跡であることがわかりました。

Ａ区では、４カ所からあわせて６基の土壙墓（うち土器棺墓１基）を検出しました。その内、ＳＸ－０１の穿（う）たれていた墳丘は、ほぼ円形を呈しています。また、ＳＸ－０４、０６のあった場所は、墳丘上の盛土の流出により、かなり原形を損っていますが、周溝の形から推測すると、方形を呈していると思われます。さらに、ＳＸ－０２、０３が検出された場所は、

他とは異なり、ほぼ平坦な場所につくられていました。ＳＸ－０２からは、鉄剣が１振出土しましたが、古墳時代前期ごろの土壙墓からの出土は、町内では初めてです。

また、ＳＸ－０４の南脇からは、土器棺墓と思われる遺構を検出しました。使われていた土器は、壷形で器高37.5cm、口径22.5cmを測ります。

底部は、人為的に打ち抜かれたと思われる穴が開いていました。穴の大きさは、直径14.5cmを測ります。外面に肩から胴上半分にかけて、横方向の、胴下半分には不定方向のハケ目が施されています。また、頸部にも縦方向の荒いハケ目がみられます。内面は、胴部全体にヘラ削り調整が認められました。

土器の特徴として、胴部のラインは土師器のもつ本来のつくりをしていますが、ラッパ状に外反する頸部から口縁部（単純口縁）にかけては、須恵器の甕を思わせる独特のつくりとなっています。県内では、臼（うす）コクリ遺跡の３号土器棺墓より類似した土器が出土しているのみで、他には報告されていません。今後、より詳細な検討が必要です。

Ｂ区からは、弥生時代の竪穴式住居跡１棟と、焼土土壙１を検出しました。住居跡の平面形は、やや角ばった円形で、残存で直径約10ｍとかなり大きな住居です。建物は前述した４穴で構成されていたものと思われますが、他にも複数のピットがあることなどから、建て替えが行われた可能性も十分考えられます。

焼土土壙は、不正形な楕円形（だえんけい）を呈していますが、住居との関わりや、用途については不明です。つくられた時期は、内部からの出土土器の特徴から、住居跡と同時期の弥生時代中期ごろと思われます。

いずれにしても、町内で明確な弥生時代の住居跡がみつかったのは、今回が初めてで、今後の弥生集落を考える上で、たいへん貴重な資料となりました。

斐川町文化財調査報告１３

町道杉沢線改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査概報
（杉沢遺跡）

発　行　　１９９５年３月
編　集　　島根県斐川町教育委員会
〒699-05
島根県簸川郡斐川町大字荘原町2172
℡ 0853(72)0211
印　刷　　島根印刷株式会社
写真協力　　アジキスタジオ